

# エゴサの余裕はまだあるが

根間健太郎

## 《配役》

町田アキコ・・・  
伊予原ダイゴ・・・  
青山アンヌ・・・  
宇佐見アスカ・・・  
山本ガム・・・  
伊吹ユリコ・・・  
凧良ユウコ・・・

\* 作品の著作権は作者に帰属します。無断の上演・掲載・引用・配布等は固くお断り申し上げます。  
\* 今後の改稿を目指す進行中の戯曲であることをご理解のうえお読みください。

オープニング

● M in

○客電 暗転

○溶暗(フル転)

杉江の影らしき姿が、その微かな明かりのなかで照らされる  
執筆に務めるが筆が進まず苦悩している杉江の姿が映される  
その表情は読み取れない  
まるで苦悩の森に孤高だけが残された雰囲気すら漂う

その静観を急襲するかのように玄関から部屋にだれこむ町田と伊予原  
二人はなにかを探しているようだが、それは見つからない  
そんな二人の姿を傍観する杉江はゆっくり立ち上がる  
二人の狼狽だけを部屋に残し、杉江は部屋を立ち去る

○暗転

● M Fout

一幕 お探し物は自宅まで

作家・杉江の自宅

舞台手前・玄関前、共用廊下

中央・客席側が玄関

舞台奥・上手・キッチン・別室

舞台奥・下手トイレ

執筆道具、舞台小道具が散乱し、まるで生活感が見えない物置小屋のよう部屋。

中央にテーブル。

机上にはパソコンやノート、メモ。マグカップや菓子袋など

○明転

小さなアパート 杉江の自宅

静かな雰囲気を感じさせる杉江の自宅周辺

杉江のいない部屋に立ち尽くす町田

会社に電話をかける伊予原

町田 蛻の殻か――

伊予原 …でないです

町田 …編集長でなかった？

伊予原 はい

町田 どのいつもこいつも

伊予原 どうでしょう？

町田 編集長への連絡は後回し とにかく先生を探す

伊予原 はい

町田 どこ行っちゃたんだろう――

伊予原 町田さん、いつもこんなことしてるんですか？

町田 こんなことって？

伊予原 こうやって杉江さんと連絡取れなかったら家に押し寄せて、泥棒みたいに物色す

るんですか？

町田 人聞き悪い 今日のはたまたま 連絡が取れないなんて初めてだもん

伊予原 それは失礼しました――

町田 まあでも、ほら 合鍵預かってるから大丈夫だん――

伊予原 語尾に音符付けるのやめてもらっていいですか？ 意味含んじやうんで

町田 だって合鍵だもん

伊予原 合鍵に対する信頼性なんなんですか？

町田 とにかくなんとしてでも今日中に……いや、それじゃあ遅いな 昼までには捕まえな  
いと

伊予原 見つからなかったらどうするんですか？

町田 ……見つからない？

伊予原 あ、いや――

町田 そんなの絶対にありえない いい？ 今日には伸びに伸びた締切日なんだからね

今日中に原稿回収できなかつたら編集長に……あー、想像しただけでもぞつとする

伊予原 僕らも逃げちゃいますか？

町田 ……

伊予原 新手のジョークです

町田 で、どうする？

伊予原 僕のセリフですよ どうするんですか？

町田 どうしようね――

伊予原 電話も出ない 家にもいない これ詰みですよ

町田 イーजीゲームだと思ったのになあ

伊予原 あ――

町田 なに？

伊予原 SNS

町田 SNSがなに？

伊予原 杉江さん、なにか呟いてたり、「いいね」押してたりしないですかね？

町田 それ見つけてどうするのよ

伊予原 いや、生存確認っていうか――

町田 生存はしてるに決まってるでしょ 消息分からなきや意味ないんだから

伊予原 すみません

町田 伊予原くん、だいたいあんたね……

遠くの方から部屋に近づく足音が聞こえてくる

その音に耳を澄ませる町田と伊予原

町田 近づいてくる？

伊予原 隣の人かもしれませんか？

町田 いや、先生？

伊予原 え？

町田 あ、くるね これくるね あ、くる くる、くるくるくるくる 右手――

ドアノブに手をかけ、開いていることから玄関に入る青山

青山 あれ？ 杉江いる――？

町田 …だれ？

町田と青山の目が合い、お互い硬直状態となる  
青山の後ろを追いかけてくるかのように、玄関に入る宇佐見

宇佐見 青山さん、ちよつと待ってくださいよ だから杉江さんは…

青山 えつと――

町田 え、待ってだれ――

伊予原 およよ

青山 …えつと、どちら様でしょうか？

町田 あ、私たちは…

青山 部屋間違えた？

宇佐見 え？

青山 あ、部屋間違えたんだ 失礼しました――

宇佐見を残して、隣の部屋のドアノブに合鍵を差そうとする青山

青山 …

宇佐見 あの、青山さん？

青山 あ、部屋間違えてないわ――

町田 …

ゆっくり杉江の部屋に入る青山

青山 お邪魔しまーす

町田 あ、はいどうぞ――

青山 …

部屋のなかを眺めながら、床に座り寛ぐ青山は机上の執筆道具をゆっくり漁る

伊予原 えーと、この人は？

青山 あ、青山です 初めまして――

町田 あ、初めまして 町田と言います

名刺を取り出し青山に渡す町田

丁寧に受け取るもノールックで机上に置く青山

青山 …

町田 あの、私たちは…

青山 どういうご関係ですか？

町田 はい？

青山 杉江とは、どういうご関係で？

町田 あ、私たちは…

青山 すみません、愚問でした――

町田 えーと

青山 あの、ごめんなさい…泣いていいですか？  
町田 …

青山、机上のティッシュを取り、静かに泣く

伊予原 いや、情緒よ——

宇佐見 ここって杉江さんの家で間違いないんですよね？

伊予原 そうです

宇佐見 姿が見えないってことはいないってことで？

伊予原 仰る通りです

宇佐見 困ったな—

伊予原 …

宇佐見 あなたたち二人は、杉江さんとはどういう関係で？

町田 私たち、杉江先生…あー、杉江さんとは、同業者と言いますか…

宇佐見 杉江先生——

青山 え？

町田 そうなんです お仕事での繋がりです

青山 そうだったんですか？

町田 驚きますよね？ 家に来て知らない人いたら すみませんでした

青山 なーんだ そうなんだ ぜんぜん大丈夫です こちらこそ失礼しました、狼狽して

いしまい そっかー、よかつたー、これが他人かー

町田 …他人？

伊予原 お二人は？

宇佐見 私も杉江さんとは仕事仲間です

町田 そうだったんですね？

青山 この人はちよつと違うんです——

伊予原 どういうことですか？

宇佐見 いや違うのはあなたでしょ

青山 ですから、この人のことは一旦無視しましよ

宇佐見 ちよつと…

青山 えつと…町田さん？

町田 はい——

青山 この人とはあまり関わらない方がいいと思います

町田 えっ？

宇佐見 いや、この空間で部外者なのは、きつとあなただけですよ えーと、町田さん？

町田 え、あ、はい——

宇佐見 宇佐見と言います 以後お見知りおきを

宇佐見、自分の名刺を取り出し、町田に押し付ける

町田 …あ、どうも

町田に手渡された宇佐見の名刺を青山が奪い取り破る

宇佐見 ちよつとなにするんですか

青山 町田さん、ほんとに関わらない方がいいと思うんで

町田 ありがとうございます

宇佐見 だつてこの人、さつき杉江さんのこと「先生」って呼んでましたよ？

青山 きつとニツクネームでしょー

伊予原 そんなことありますか？

町田 伊予原くん

伊予原 はい

町田 ちよつとお茶持つてきてくれるかなー

伊予原 いや場所分らないですよー

町田 場所分らなくても冷蔵庫見れば、「あ、ここにお茶ありそうだなー」って思うでしょ？ 冷蔵庫は知ってるよね？ 見たことある？ 冷蔵庫

伊予原 いや、幼稚園児の目線 ありますよ、どうしちゃったんですか

町田 それでこの宇佐見さんって人と一緒に探してきてくれたらよりいいから

伊予原 え？

宇佐見 完全に厄介者扱いじゃないですか

町田 伊予原くん

伊予原 …分りましたよ

宇佐見 …

伊予原 宇佐見さん、向こうで男二人でゆっくり話でもしましょ

宇佐見 男は蚊帳の外ですか これだから日本はまだまだなんですよ いきますか

伊予原と宇佐見、二人でキッチンの方に向かう

その動向を視線で追う町田

町田 なにかされたんですか？

青山 すみません、助かりましたー

町田 いえいえ

青山 あの人、妙なことばかり言うんですよ

町田 妙なこと？

青山 実は今朝から杉江と連絡が取れなくて…

町田 私もですー

青山 それで心配になって、様子見に行こうと思ってここまで来たんですけど

町田 はい

青山 そしたらあの人はずーつとぐるぐるぐるこの家の周りを怪しそうに物色してて

町田 え？

青山 怖いなーって思いながら、目を合わせないように歩いてたんですけど、そしたら声

かけられて

町田 大丈夫でしたか？

青山 ええ 別になにもされなかったんですけど 「杉江さんて人知ってますか？」って

町田 はいー

青山 この人が何者かも分からないですから、あまり下手なこととも言えないなと思って、

無視して歩いたんです そしたらー

町田 そしたら？

青山 掴まれたんです

町田 …どこを？

青山 ハート——  
町田 ……えーっと？  
青山 この人、かっこいいな、って思っちゃたんです  
町田 えーと  
青山 だからLINEと電話番号と名前を教えて立ち去ろうと思ったんですけど…  
町田 あ、シンプルサイユだ  
青山 そしたら付いてくるんです  
町田 でしょうね  
青山 私怖くって——  
町田 はあ  
青山 このまま好きになっちゃったらどうしようって  
町田 ういー なっちゃえよ  
青山 はあ  
町田 ……あ、ただの怖い話か  
青山 はい、怖い話でした  
町田 ……  
青山 あとそうだ また別に変なことも言うんです  
町田 へえ  
青山 「杉江さんの会社ってすごいですよね」って——  
町田 ……えっ？  
青山 「あんな立派な社長見たことない」って  
町田 社長？  
青山 変ですよ？ 杉江って社長なんかしてませんよね？  
町田 ええ 杉江先生は、作家ですから  
青山 作家？ あー、そうですね、作家ですよ  
町田 ですよ  
青山 なんか話が噛み合わないですよ 付き合ったら大変ですよ？  
町田 それは知らないですけど——  
青山 でもずっと、杉江のことを社長って  
町田 そういえば青山さんと杉江先生の関係って  
青山 私も同業者です  
町田 そうだったんですか  
青山 ずっと近くで、あの人の言葉に触れてきました  
町田 どれくらいのお付き合いに？  
青山 あ、恋人じゃないです  
町田 そういう意味じゃないです  
青山 もう少しで十年になります  
町田 すごい 長いですね  
青山 すごくないですよ  
町田 羨ましい限りです ずっと先生の横で、物語を紡いでいく姿を見てきたんですもんね？  
青山 すごいバカみたいな話なんですけど、あの人の書く言葉が大好きなんですよ  
町田 分かります  
青山 これからもずっと本を書き続けてほしい——  
町田 はい

青山 だから、社長やったり、こんなことで消えてる場合じゃないですよ  
町田 確かに、困りますね

青山 締切も過ぎてるんだから

町田 え？

青山 はい？

町田 あ、先生…二本も締切抱えてたんですか

青山 どういうことでしょうか？

町田 私も今日は催促に 実はとづくに締切が過ぎていて

青山 あの人、こんな時期に外部にも書いていたんですか？

町田 …まあ、外部というか――

青山 っていうか、町田さんは杉江のことをけっこう慕ってるんですね

町田 え？

青山 先生って――

町田 まあ、仕事柄そういう立場ですから うちの会社古いのかな

青山 会社？

町田 編集長がどんな作家さんでも、「先生って呼びなさい」って

青山 …編集長？

町田 青山さんは、先生とはだいぶ親しいんですね

青山 そうでしょうか？

町田 …ずっと呼び捨てだから

青山 学生の頃から一緒ですので それに、上司と部下でもないのです――

町田 …私、薄々思っていたんですけど…話噛み合っていないですよ？

青山 じゃあ、私たち、付き合ったら大変ですね――

町田 そうですね

青山 …

町田 お互い何者かの認識、合わせておきましょうか

青山 そうですね、そうしましょ そしたらせーの、で言いますか

町田 いいですね

青山 じゃあ、せーの

町田 出版社の方――

青山 演劇関係の――

町田 …演劇関係？

青山 …出版

キッチンから戻る伊予原は慌てた様子

伊予原 町田さん、大変です さっきの宇佐見さんって人なんですけど…

町田 分かってるよ ちなみにこっちも大変――

伊予原 え？

続いてキッチンから戻る宇佐見は至って冷静な様子

宇佐見 だからね、伊予原さん なんとも言いますが、杉江さんが小説家な訳ない

でしょ

伊予原 僕たち、家間違えてるんですかね？



町田 合ってるよ、だって合鍵預かってるもん  
伊予原 あ——  
青山 え、どういうことですか？ 小説家？  
町田 まるで、小説みたいですね  
伊予原 …あ、あともうひとつ大変なことが…

刹那、家に近づいてくる足音が四人の耳に響く

町田 …

伊予原 あ、町田さん？

町田 先生かな

宇佐見 え、ほんとに？ じゃあちよつとこの状況説明してもらわないと——

再びキッチンに向かう宇佐見

杉江宅の玄関前に到着したのは山本

山本がドアノブに鍵を差し込み開錠しようとするが、すでに開いていることに気がつく

山本 え、開いてる？

扉を開け、部屋のなかを確認する山本

山本 杉江さーん、いるんですかー？

玄関の扉が開け放たれ、三人と目が合う山本

山本 え？ 誰ですか？

青山 あ、こんにちは

山本 杉江さんの、お知り合いですか？

青山 まあ

町田 え、だれ？

伊予原 そうだ町田さん、大変なことが…

町田 後にして

伊予原 後にできないんです だって…

町田 なに？

伊予原 …部屋の奥に、女の子がいるんです——

町田 …え？

宇佐見、伊吹を連れてキッチンから戻ってくる

青山 え、だれ？

伊吹 こんにちは

○暗転